

1 教育目標

① 目指す学校像 難関大学への進学、立命館への高大接続による進学、スポーツで一流選手への成長などを目指す多様性をもった近畿南部随一の学校
② 育てたい生徒像 自ら考える力を持ち、素直で、周りを思いやり、忍耐強く物事に取り組むことのできる生徒

2 中期的目標

1 教科教育力の強化と進学実績の向上
2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上
3 クラブの競技力向上と全国大会出場
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT 教育）の強化
5 生徒募集強化による定員の確保

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
①教育活動に関する保護者アンケート（2023. 12. 1 実施） 今年度は中高共通の 21 項目のうち、7 項目が肯定的評価 80%以上となった（前年度 9 項目）。特に、「学校行事は楽しく充実している」（本年度 79. 4%・昨年度 62. 1%）は、体育祭や球技大会、国際交流等の行事を実施できたことや保護者会の協力が評価改善に大きく貢献したと思われる。 「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がなされている」や「（寮の）食事内容に満足している」など、昨年度より肯定的評価が低くなった項目については、検討、改善をする。	①委員会体制 初芝橋本中学校高等学校評価委員会 教育後援会会長（卒業生保護者・地域有識者）・ 教育後援会顧問（卒業生保護者・地域有識者）・保護者会会長・ 高等学校 2 学年保護者・中学校 3 学年保護者・校長・教頭
②生徒授業評価アンケート（第 1 回：2023. 6. 12 第 2 回：2023. 11. 6 実施） 3 年前より外部委託を行い、より正確で客観的な分析を行っている。総合評価の平均は、第 1 回は中学 85. 0pt、高校 85. 9pt、第 2 回は中学 86. 9pt、高校 83. 1pt（業者による目標得点は 75. 0pt）と、昨年度に引き続き、高評価であった。各回のアンケート後に分析報告会を実施した。各教科で学習効果を高める授業を行えるよう、引き続き努力する。	②委員会実施日 2024 年 4 月 6 日（土）12:00
③教員による自己評価アンケート（2024. 1. 22 実施） ①と同様に、「ボランティア活動」「学校行事」、「生徒会活動」など、行事が活発化したことで、前年度よりも肯定的評価を伸ばした。また、「教員・職員間での情報共有」「職員会議での情報共有」「研修の機会」等の項目でも改善が見られた。引き続き、教職員の情報交換、共有、研修等の機会と内容の充実について改善する。 「地域との交流」について、より活発な交流が行われるよう、引き続き検討する。	③自己評価の結果に対する委員会の評価 ・学習時間を確保し、国公立大学の合格者数を増やしてほしい。 ・トイレなどの改修を行い、女子生徒の増加を目指してほしい。 ・海外への修学旅行や国際交流など豊富なイベント、私学ならではの魅力づくり、公立校との差別化を行うべき。 ・今年度はスポーツコースから国公立大学進学者が出た。スポーツコースで 2 年次に理系を選択できるようなカリキュラムができないか。 ・進学には手厚いが、公務員などの就職へのサポートなども充実できないか。 ・良いことをたくさんしているのだから、もっと保護者にも、外にも発信するべき。 ・大阪府の授業料無償化制度を活用し、大阪府からの生徒をもっと増やしてほしい。

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 教科教育力の強化と進学実績の向上	(1)進路指導体制の強化	①生徒の視野を広げる取り組みの充実・進学意識の向上 ②チームとしての進路指導体制の確立 ③総合型選抜・学校推薦型選抜の活用と対策強化	①取り組みの実施 ②進路指導体制の確立 ③各種選抜入試の活用と強化	①以下を実施した。 (a)説明会： 6/1, 17 高3 進学説明会、7/18 高2大学別説明会 10/20, 11/5 高1・2進学説明会、 12/13 中3・高1学問分野別模擬講義 (b)進路講演： 1/31 高1・2進路説明会 (c)大学見学会： 10/26 高1(1・3組)大学見学会(大公大・桃学大・近畿大) 12/14 高1・2(スポーツ)大学見学会(大体大・桃山大) ②③については取り組んだが、課題が残った。	・説明会・進路講演会・大学見学会については引き続き実施し、情報提供と大学進学への意欲喚起を図る。 ・生徒の視野を広げるためにオープンキャンパスや外部の説明会等に積極的に参加を促す。 ・学校全体としての進路指導体制を確立する。
	(2)コース毎の課題	①プレミアムコース ②総合進学コース ③スポーツコース (立命館コースについては別記)	①和大・大公大を中心とした国公立大学合格者数増(目標 10) ②近畿大学を中心とした私立大合格者数増(目標 15) ③部活動と学習の両立	①②関関同立、近畿大学については目標を達成することができた。 (a)大学合格者数(2023. 3. 2現在) ・国公立大学：3 (大阪教育大・和歌山大2) ・関関同立：35 (目標30) ・近畿大学：36 (産近甲龍46) (b)進学率 ・現役進学率95% ・大学124、短大2、専門学校3、就職5、進学準備2 ③「初橋探究」 ・高1 (4・5 組) は桃山学院大学の三井教授によるプレゼンテーションに関する特別講義を 5 回行った。 ・2/7 高1・2で「探究発表会」を実施した。	・授業の工夫などについて情報交換、共有し、良い授業を継続できるしくみをつくる。 ・学力向上のため、学校として共通課題を設定し、日々学習する習慣を身につける。 ・フォーサイト手帳を用いて生徒が主体的に目標設定や学習管理ができる仕組みを作る。

2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上	(1) 立命館コースの学力向上	①GTEC成績向上 ②高3学習到達度検証試験の全員合格 ③学力向上のための取り組みの充実	①GTEC スコア推移 ②学習到達度検証試験において合格基準(60%)到達・追課題基準(70%)到達 ③取り組みの実施	①GTEC 平均スコア（高1、6月→最新回） 高1（698.5→700.7）高2（685.4→808.3）高3（686.5→882.6）。 ②英数国とも合格基準には25名全員が到達。追課題基準には英語23名、数学24名、国語20名が到達。 ③英単語学習に学習アプリ「Monoxer」を導入、活用した。	・理系強化：連携企画の順序を工夫し早期に理系進学を意識させる。 ・英語力の強化：Monoxerのさらなる活用、意欲の向上。 ・国語力の強化：輪読、各企画の振り返り（記述）を重視し、読解力、表現力の向上。
	(2) 大学で学び続けるための意識の向上	①高大連携企画・本校独自企画の改善と充実 ②入学前教育の充実	①各企画の計画と実施 ②入学前教育の計画と実施	①各学年・各学期にオリエンテーションを実施。 ・高3対象校長面談、高1・2対象主任面談を実施。 ・高1「立命館を学ぶ」、「日本社会を知る」「理系的解決法を学ぶ」、高2「APU多文化理解」「プログラミング講座」「裁判所見学」、その他、高1～3立命館ミーティング、高1・高2ライスボールセミナー、BKC保護者説明会等を実施した。 ②12月～2月にかけて、大学への数学、英語（TOEFL/TOEIC対策等）、オンライン英会話、論文講座、物理、世界史の講座を実施した	・立命館ミーティング、ライスボールセミナーで意欲向上を図る。 ・オープンキャンパス、サマースクールへの参加を推奨する。
3 向上と全国大会出場	クラブ実績の向上	・競技力向上による全国大会への出場	・全国大会への出場	・全国大会出場(カッコ内は回数) サッカー部(2)・柔道部(2)・テニス部(1) なぎなた部(1)・卓球部(1) ・近畿大会出場：サッカー部・陸上部・柔道部・テニス部 ・保護者アンケート「部活動や生徒活動が活発に行われている」肯定的評価 84.7%（昨年度 88.9%）。	・引き続き、部活動の充実に努める。
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT教育）の強化	(1) 自ら学び、自ら考える力の育成	・地元行政や近隣大学と連携した探究活動	・各取組の実施 ・アンケートによる評価	(a)「初橋探究」 高1（1～3組）は桃山学院大学ビジネスデザイン学部と共同授業を行い、2/3に同大学キャンパスで発表会を行い、講評をいただいた。高1（4・5組）は桃山学院大学の三井教授によるプレゼンテーションに関する特別講義を5回行った。 2/10県と市の選挙管理委員会の協力を得て、中3から高2まで、初橋探究の「政策発表会&模擬投票」を実施した。 (b)「進プロ」「スタサタ！」と懇談週間 年間を4クールに分けて、「進プロ」「スタサタ！」を実施しし、各クール前に「懇談週間」を設けた。 ・教員アンケート「生徒は主体的にセルフデザインを行っている」肯定的評価 66.7% (昨年度 62.1%)。 ・保護者アンケート「わが子は進プロ・スタサタを活用できている」肯定的評価 41.8% (昨年度 41.7%)。	・全学年に手帳を導入し、目標設定やスケジュール管理、振り返りなどを主体的に行えるよう、「セルフデザイン」を抜本的に見直す。
	(2) 生徒が主体となる活動の強化	①生徒会と連動した校則の見直し ②学校行事の見直し ③生徒会を中心とした各種委員会活動の活発化	①校則の見直しの実施 ②学校行事の見直しの実施 ③生徒会中心の活動の活発化	①校則について、生徒会と校長・生徒指導部による協議が実施された。 ②4月の若葉祭を9月文化祭としてリニューアルを検討する。また、体育祭、球技大会についても実施時期や場所を検討した。 6月にマレーシア国際交流、12月に台湾交際交流を実施した。 ③若葉祭、体育祭、球技大会、国際交流、政策発表会&模擬選挙など、生徒会を中心に当日の運営を行った。	①引き続き協議し、議論を活発化させる。 ②③引き続き検討し、生徒がより主体的に取り組むことができる行事としていく。 ・台湾嘉義高級中学との姉妹校提携を活用し、国際交流を活発化させる。
	(3) 地元と連携し、地元から愛される学校づくり	①地元意識の向上 ②部活動における地域連携	①地域有識者の方による講演実施 ②部活動において地域との相互協力を行う。	①実施できなかった。 ②(a)インターアクトクラブ ・隅田地区公民館・胡麻生区民会館「子ども食堂」への協力。 ・胡麻生区民会館「サマーチャレンジ」協力。 ・境原小学校・紀見小学校での学習支援協力。 (b)図書部 ・橋本市図書館「よみかたりボランティア養成講座」実施。 ・橋本市民体育館「まなびの日」参加。 ・橋本市図書館主催「ビブリオバトル in はしもと」参加。 (c)放送部：FM はしもとでのCM作成	①引き続き、検討する。 ②部活動のみならず、地域連携や地域との交流を活発化する。
	(4) ICT 機器の効果的活用	AI 教材を活用し、学習内容の定着と自ら学習する姿勢の涵養	①AI 教材等の活用 ②学習内容の定着と自ら学習する姿勢を涵養する仕組み作り。	①中1～2(国数)、中3(数英)、高1～3(国数理英)でオンデマンド授業を実施。 ・中学全学年にAI教材「Qubena」活用。中1～高3スタディサプリ、スタディサプリ English 活用。 ②教材を活用する仕組みについて、2024年度より運用する。	・引き続きAI教材、オンライン教材の活用を促進する。 ・実施状況や効果を検証し、主体的に学習する姿勢を涵養する仕組みをつくる。

5 生徒募集強化による定員の確保	・入試広報活動の強化	①大阪南部への広報活動の強化 ②地元からの受験生増加 ③ホームページの充実と見てもらうための誘導の工夫 ④募集行事の参加者増加 ⑤教育活動の広報の充実 ⑥推薦・特別奨学生制度の活用	①中学校訪問・出張説明会の実施。 ②橋本市受験者数 ③ホームページのビュー数 Instagram のフォロワー数 ④募集行事参加者数 ⑤ホームページ・Instagram 等の投稿記事数 ⑥推薦・特別奨学生制度の利用生徒数	①昨年度同様、大阪南部の 80 校の公立中学校に対し、年 3 回以上の訪問を行った。 ・河内長野市で 7/8(土)に出張説明会を行った。 ・大阪南部からの受験者は、59 名（昨年度 57 名）。 ②橋本市からの受験者は 118 名（昨年度 134 名）。 ③ ・ホームページの月平均 PV 数は 29,141（昨年度 29,584）。 ・Instagram のフォロワー数は 588（昨年度 270）。 ④募集行事の参加者数は 274 組（昨年度は 326 組）。 ⑤ ・ホームページ投稿記事 121（昨年度 41）。 ・Instagram フィード投稿記事 252（昨年度 218）。 ⑥特別奨学生制度を希望した受験生数 91（昨年度 79）。	・大阪府私学無償化、コース改編などについて、大阪南部への広報活動をより強化し、受験者増加に繋げる。 ・本校の特色や地域との連携を通して、地元の受験者数増を図る。 ・ホームページ、Instagram での学校生活や募集行事の発信を引き続き積極的に行う。
---------------------	------------	---	---	--	---